



TITLE:

編集後記ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記ほか. Cue 2014, 31: 73-73

ISSUE DATE:

2014-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/187344>

RIGHT:

cue 31 号 目次

巻頭言

日本の電機に将来はあるか

…………… 昭和 44 年卒業 三菱電機株式会社 取締役会長 下村 節宏………… 1

大学の研究・動向

新しい材料・構造・概念がもたらす半導体デバイスの革新

……………電子工学専攻 電子物性工学講座 半導体物性工学分野………… 3

産業界の技術動向

日本エレクトロニクスの復権に向けて

……………シャープ株式会社 種谷 元隆………… 10

研究室紹介…………… 16

博士論文概要…………… 35

高校生のページ

「集積回路の長期信頼性向上に向けて」

… 情報学研究科 通信情報システム専攻 集積システム工学講座 情報回路方式分野 佐藤 高史………… 63

学生の声

「博士課程短縮卒業への道」

…………… 工学研究科 電気工学専攻 山川研究室 博士後期課程 2 年 芦田 康将………… 68

「急がば回れという基本」

……………工学研究科 電子工学専攻 木本研究室 博士後期課程 3 年 森岡 直也………… 68

教室通信

各種アンケートから見た電気電子工学科とその学生像

……………電気電子工学科長 小野寺 秀俊………… 69

賛助会員の声

「ロームにおけるメディカル製品の研究開発」

……………ローム株式会社 メディカル・ヘルスケア研究開発ユニット 百瀬 俊………… 70

編集後記…………… 73

編集後記

本号の「巻頭言」、「産業界の技術動向」、「賛助会員の声」では、日本の電機・エレクトロニクスの復権には、技術力に加えて新たな価値と生み出す国際コミュニケーション能力が必要であると強いメッセージが込められています。「大学の研究・動向」と「研究室紹介」からも、京都大学電気系教室では活発に世界をリードする第一線の研究がなされていることが伝わってくる一方、「教室通信」で紹介されている学生アンケートからは国際的場면을志向する学生像は伝わってきません。これに対処するように京都大学での教育を国際化しようとする動きが活発になってきています。京都大学では平成26年度より多数の外国人教員を雇用して相当数の講義が英語で行われるようになります。講義の中で、英語で質問できる学生が一人でも増えてくれることを期待したいものです。国際的な場面で、日本の新技術をアピールして国際標準にまでもってゆくには、交渉の場に立てるように英語力と共に博士号をもっていることも重要な要素となります。本号で紹介されている26件の充実した内容の博士論文概要に加えて、「学生の声」の欄には、短期間で博士号まで取得して企業で活躍しようとする学生、じっくりと研究者を目指す学生と、タイプの異なるものの、頼もしい声が寄せられています。本号が博士課程を志す学生の参考になることを願います。最後になりましたが、ご多忙のところ本号にご寄稿頂いた皆様をはじめ、いつもcue誌を支援頂いている多くの皆様に厚く御礼申し上げます。

[Y.O. 記]